

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 Aユニット		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyousoCd=2392200206-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームは元来 外出支援に力を入れていましたが、コロナウイルス流行のため、方針を変えざるを得なくなりました。そんなコロナ禍でも入居者様にホームでの生活を楽しんで頂けるように室内行事や室内レクの充実を図りました。入居者様が昔ご自宅で行っていたような保存食(例えばラッキョ漬けや切り干し大根作り、梅シロップ)作りなど入居者様と職員一緒に作り、わいわい楽しく日々を送っています。ホームの畑や果樹・花壇での花々の育成にも入居者様に積極的に参加して頂くようにし、入居者様それぞれに合った楽しみを見いだし提供出来るようにしています。室内だけでなく、新型コロナの流行具合を見て、ドライブレクなどを敢行し気分転換を図っています。入居者様の下肢筋力低下防止に朝の散歩や午後からの体操、階段昇降などを行い出来るだけストレスフリーな生活を実現出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナ禍の為、本年度外部評価の訪問調査は、電話ヒアリングに代えて実施した】
職員の入れ替わりが少ない環境で、馴染みの支援実現がホームの強みである。コロナ禍でも、利用者と一緒に楽しむ工夫し、行事外出こそ自粛しているが、利用者の気晴らしと気分展開に配慮した、ドライブや混み合わない場所への外出を行っている。室内行事の充実は言うに及ばず、「とにかく楽しむ」を貫いている。外食の代わりにテイクアウトを楽しんだり、喫茶外出の代わりにケーキを買ってきてそれぞれに選んでもらう等、利用者の笑顔あふれる様子が想像できる。
馴染みの関係であるからこそ、いかに利用者の普通の生活を支えるかを常に考え、利用者の信頼に応えることができ、利用者もまた、職員に信頼を寄せている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度、職員皆で新しい理念を考えて運用しようとしたが中途半端になってしまいました。来期はホーム開設12年目をむかえ、干支も一回りするので、理念作りを再開したいと思います。	12年の干支の一回りを機に、職員参画で新しい理念を策定中である。職員の思いの込められた理念策定が期待される。	併せて、理念を踏まえた「行動規範」の作成が望まれる。理念実践をより具体化するツールとしての活用に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり中々厳しい状況で、ホーム以外での人との交流は出来るだけ避けて生活していますが、朝の散歩など出会った人に御挨拶するなどは行き最低限の交流は行っております。	コロナ禍で、以前のような交流は難しい状況が続いている。散歩時の挨拶や、ホームの畑の世話に来ていただく等のお付き合いは継続できている。また、毎年の地域の神社のご祈禱は、利用者の強い希望で実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議をホームで開催し、テーマを決めて勉強会などを行い、地域の方々に理解を広めておりました。今はホームでの勉強会の資料を運営推進会議の資料と合わせて配布し、直接御意見を伺っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防でホームで会議を開いていません。その代り運営推進会議の資料や議事録を地域の方々や地域包括支援センターの方にお渡しし、直接ご意見を伺っております。	この1年は、コロナ禍により、6回全てを书面開催にしている。ホーム内のメンバーで会議を開催し、議事録を作成して外部のメンバーに配布し、運営報告を行っている。配布時に意見や提案を聴取し、次回会議の議題に取り入れて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営や対応にあたり、わからない事があれば市役所に出向いたり電話で聞いて確認している。	市の担当部署とは、運営に関する報告・相談を通じ、連携している。助言や指導は適切に運営に反映させている。地域包括支援センターとは、民生委員の独居老人支援の手伝いで連絡を取り合い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は利用者様の安全を考えると施錠せざるを得ない現状ですが、これを当たり前と思わず、職員は疑問に思うことを話し合い厳しい目で行っています。また身体拘束をしないケアの社内研修を行い、研鑽を積んでいます。	身体拘束委員会を設置し、2ヶ月毎の運営推進会議で委員会を開催している。身体拘束排除に対するホームの意識は高く、常に事例検討を行い、拘束をしない工夫を話し合える環境を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については社内研修を行い、スピーチロックなど施設職員にありがちな過ちを起こさないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに学ぶ機会を持ってなかった。機会を見て話し合う時間を持ちたいと思う、実際、現入居者様で該当する方が見えない為意識が薄い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居生活に対して不安を抱かないよう説明し、理解頂けるように努力しています。ホームで出来る事出来ない事を踏まえて、お話をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と職員が気軽に話せる雰囲気作りをしています。実際、面会時などご意見やご要望を伺う事がよくあり、出来るだけ現実出来る様に職員と話し合い対応しています。	面会時や来訪時の機会に、忌憚のない意見・提案の聞き取りに努めている。内容は職員間で共有し、改善と実現に向けて協議している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を聴くように努めています。月1回行うミーティングで、その機会を作っています。また日頃から職員と意見交換しやすい雰囲気づくりを行い、提案～実践へと改善出来る柔軟な環境づくりに努めています。	職員の意見表出の機会を多く設け、都度に協議できる環境がある。個々の意見を職員全体の意見として集約し、実現に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けていきます。職員全員に年2回人事考課を行い、目標や向上心をもって仕事に取り組む事が出来るように		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インターネットを利用したオンライン動画研修システムを導入しているが、職員が順番に司会進行役となるようにしたら今まで以上に真剣な取り組みが見られる。コロナ禍でも研修を受けスキルアップを図れるように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すぐ近くにデイサービスの事業所が出来たのですが、管理者同士良好な関係を築くことが出来、情報交換や協力をし、相互に助かる関係性が出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気に努めております。ご本人様の言葉やしぐさ行動などから思いを受けとり理解して良好な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来ない事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを理解して、必要と思われるサービスを説明し導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設当初の職員も多数おり、利用者様とは馴染みの関係を保っています。出来る家事と一緒に رفتり会話をしたり、教えられることも多数あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防のため玄関先でのシート越し・窓越しの面会や、ズームやラインを使用したりリモート面会を行い、大切なご家族様との絆がきれないように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあるので御家族様以外の面会はしていないが、お友達と電話でお話されたり、お手紙を出されたり受け取ったりしています。思い出深い場所についてもコロナ禍が落ち着いたら出かけたいためと入居者様と話合っています。	コロナ禍の感染予防の観点から、面会や外出等の自粛を余儀なくされる中、コロナ禍の状況を見ながら、家族面会を継続している。家族以外の面会は自粛し、電話の取次ぎや手紙のやり取りを支援している。コロナ終息が待たれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不安や落ち込まないように、また孤立させず、性格の合わない場合には時に職員が間に入ったりと上手に関わり合えるように支援し努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御連絡することは少なくなっているが、永眠された後、御連絡を頂くことも多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿うような生活を目指していません。個別対応はご家族様との相談の上、行う事もあります。意思を伝えることが出来ない方は、ご家族様との話し合いと職員同志のカンファレンスでその方らしい生活を築いています。	利用者の日常の様子に目を配り、会話の中からも意向を汲み取っている。職員の気づきは毎月のケアカンファレンスで集約し、共有している。本人本位の生活実現を目指して取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。生活歴や馴染みの暮らし方については、ご家族様の面会時にお聞きし、新たに見つけた情報もアセスメント表に書き加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いはないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。常日頃のバイタルチェック等で観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、薬剤師、訪問歯科の方々の専門的な意見を参考に、毎月の職員ミーティングで課題を検討しケアプランに反映させています。迷いがあれば相談や話し合いに応じてくださる方ばかりで、安心しています	基本的には、短期目標の3ヶ月に合わせてモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の意向を重視した支援内容をケアカンファレンスで検討し、立案した介護計画を家族に送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には日々の記録が記され毎日申し送りをしています。ケアの変更に繋がる事項は申し送りノートに書き職員全体に周知させ今後の課題としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々様々な事柄が起こります。前例がない場合でも柔軟な姿勢で対応し今後繋げるように努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にAEDを設置して、回覧板にて設置したことを知らせ、また、壁にある場所等を掲げて、緊急時に使用いただけるようにしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの心身の状態を的確に把握して頂く心がけている。何か変化があった時、往診や相談に乗っていただけ助かっています。	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。熱発等の随時の往診もある。他科受診については、原則家族対応をお願いし、家族と連携して情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所時、入居者様の状態をお伝えしたり、日常の中でとらえた気づきなどの情報をお伝えしています。ケアについて分からない事や不安に思う事を相談し、適宜アドバイスをいただいたり助かっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、出来るだけ早く施設サマリーを提出し入居者様が安心して治療出来る様にしていきます。退院時も相談員様と連絡を取り合いスムーズに受け入れ出来る様に連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近づいた時、担当者会議を行いご家族様に再度方針について確認するようにしています。また職員間の情報交換も密に行い、質の高い出来るだけご家族様の希望に沿った介護が出来るよう努力しています。ご家族様にも何かあったら直ぐ連絡し、皆で一緒に取り組んでいます。	入居契約時にホームの方針を説明し、本人・家族の意向に沿った支援を実践している。協力医医師の連携も良く、本人の状態変化の都度、家族を交えた話し合いを行い、方針を決定している。家族の協力を得ながら、関わる誰もが後悔のない終末期支援となるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Iを、今年度も受けたいと思っているが、実施にいたっていない。オンライン研修や社内勉強会で、緊急時の対応の勉強はしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災、水害の避難訓練を人数が厳しい夜間想定を中心に行っています。日中の火災想定では、火元を変えて避難通路をかえても逃げられるように、日頃から訓練しています。災害対策用備蓄品も困らないように準備しています	年3回の火災避難訓練、年1回の水害避難訓練を実施している。ホームの防災に対する意識は高く、想定できる限りの被災を考え、避難方法をシュミレーションし、訓練している。飲食料、備品の備蓄を推進し、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から心がけています。また自分だけでなく、周りの職員で気になる言葉遣いの職員がいたら、そのままにせず注意できる雰囲気や関係作りを心掛けています。	認知症に関わる勉強会を実施し、認知症理解を深めている。どの利用者にも不快な思いをさせない日常を目指し、職員同士で意識を高め合い、適切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。自己決定が出来る様、無理強いしないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。一人一人のペースや体調に合わせてお手伝いやレクに参加して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には衣服等御自分で選択して着て頂いている。2月に1回訪問理美容さんが見えて、カット・パーマ・毛染め・顔そり等、本人様希望に応じて自己負担で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様より「こんな物が食べたい」と広告に載った食べ物を見せて頂いたりします。そのようなリクエストがあるとすぐに献立に反映させ、出来るだけ希望に近い食事が出来るように工夫しています。喜んでいただいています。	3食手作りで、季節の食材を近所のスーパーで調達した家庭料理が利用者にも好評である。季節の行事食、外食の代わりにテイクアウト等の楽しみもある。匂いと音を大切に考え、利用者の五感に働きかける支援につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたてて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は、飲みたい時に飲んでいただけるよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。ご本人様の状況に応じて食事量や形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院しテープ式オムツになった方も出来るだけ紙パンツでトイレに行き排泄できるように支援している。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。定期的に時間を見て声掛けして失禁が無いように心がけている	トイレでの排泄を基本に支援している。利用者一人ひとりの状態と状況に合わせ、支援方法を検討している。また、利用者の尊厳に配慮し、失敗のない排泄支援となるように、声掛けや時間誘導等を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やオリゴ糖の摂取等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。頑固な便秘には、医療と連携してその方にあった服薬を処方していただいている。牛乳やバナナ等毎朝食に変化を変えて提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間が決まっていって個々の希望にそっていないが、1日4名ほど時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。また、1F浴室にリフトを設置し、重度化された入居者様にも入浴を楽しめるようにしました。	毎日の入浴を提供し、清潔保持の観点から、隔日の入浴ができるように、入浴管理を行っている。重度化が進んでも入浴を楽しんでもらえるように、リフト浴を設置している。状態に合わせたジャワー浴、清拭等の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人部屋なので夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。1週間に1回はシーツ交換・消毒を施行		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中、条件によるが出来るだけ散歩に出かけるように努めています。散歩に出かける場所も3カ所あり、行先の希望を伺いながら出かけるようにしている。その他の外出に関しては、新型コロナウイルスの流行具合を見て、良い時は人があまりいない所や公園に行ったりしていた。	コロナ禍の為、コロナ禍以前の積極的な外出支援は自粛が続いている。利用者の気晴らしや息抜き、気分転換を考え、散歩を継続している。馴染みのコースで行き先を選択し、コミュニケーションを工夫しながら外出を楽しんでいる。また、ホームの畑や花壇の世話、状況が許せばドライブを楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では御本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は、お小遣いは事務所管理となる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に連絡したいとご希望の場合は、電話を使ってもらったりしています。手紙に関しては、年賀状を書いたり等、季節季節ごとに進めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて壁飾りを替えたり、毎月ホームの玄関先の飾りを変えている。空気清浄機、温湿度計などを設置して室温に気を配っている。居室玄関前に折り紙や花などを飾り、心和む雰囲気が出るように工夫している。	コロナ禍で、訪問調査を電話ヒアリングに代えて外部評価を実施したため、視察無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ9名座れて、集まれてTVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、時には、ヒミツの話でもされているのか？気の合った同士2人で談話されて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけご自宅でご使用されていた家具などをお持ちいただけるようにお話している。使い慣れた馴染みのあるものを居室に置いて安心して暮らしていただけるようにしています。	コロナ禍で、訪問調査を電話ヒアリングに代えて外部評価を実施したため、視察無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。常に家事など行なう時はスタッフと一緒に声掛けに努め手伝ってもらっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田 Bユニット		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2392200206-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームは元来 外出支援に力を入れていましたが、コロナウイルス流行のため、方針を変えざるを得なくなりました。そんなコロナ禍でも入居者様にホームでの生活を楽しく頂けるように室内行事や室内レクの充実を図りました。入居者様が昔ご自宅で行っていたような保存食(例えばラッキョ漬けや切り干し大根作り、梅シロップ)作りなど入居者様と職員一緒に作り、わいわい楽しく日々を送っています。ホームの畑や果樹・花壇での花々の育成にも入居者様に積極的に参加して頂くようにし、入居者様それぞれに合った楽しみを見いだし提供出来るようにしています。室内だけでなく、新型コロナウイルスの流行具合を見て、ドライブレクなどを敢行し気分転換を図っています。入居者様の下肢筋力低下防止に朝の散歩や午後からの体操、階段昇降などを行い出来るだけストレスフリーな生活を実現出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	既存の理念はあるが、話し合いをもち新しい物・自分たちにとって親しみもてる物に変えようと言う意見や動きがあったが、現在はまだ途中でとまったままである。早く皆の意見をまとめて新しい理念を作り上げたいと思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で大きく変わってしまいました。今はホーム以外での人との交流は避けて生活していますが、朝の散歩など出会った人に御挨拶するくらいです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は運営推進会議で勉強会などを行ったり、バザーを開いたり、民生委員や地域包括支援センターから頼まれた「つどいの会」の送迎をしていたが、今は開かれた活動はしばらくの状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの状況が酷くなってからは、運営推進会議の議事録を地域の方々や地域包括支援センターの方に手渡ししご意見を伺っております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や地域包括支援センター様より御案内頂く企画に関しては、積極的に参加して情報提供に努めている。運営にあたりわからない事があれば、役所に出向いたり電話で聞いて確認をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを社内研修などで勉強しています。難しい事例があってもカンファレンスを開き皆で話しあい、解決策をだし実践して、また話し合いをするで身体拘束をしないケアの実践ができています。玄関の施錠に関しては今は少し難しいです。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待は無いと思っているが、職員の一人一人が意識を持って支援していくよう努めている。アンケートを取って意識調査をしたり、外部研修に行き、その内容を社内勉強会を開き学習したりしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部の研修や勉強会を通じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、理解するよう機会を設けている。成年後見人制度をご利用されていらっしゃる入居者様もおられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居者様に対して、ホームでの生活にするにあたり、疑問に思う事や不安に思うことを把握して、説明を心掛けて、安心して頂けるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にお話をさせていただいております。なかなかお会いできない事もありますが、毎月、請求書と一緒に近況報告しております。スタッフも気楽に話せる雰囲気作りに努めて見える。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聴くように努めています。月1回行うミーティングでその機会を作っています。『自己申告書』提出と言うのが年に2度あり、管理者を通さず本部に直接意見を出せるシステムが出来、厳しい内容の意見も出せる仕組みが出来ました。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤められる様に整備に心掛けていきます。職員全員に年2回人事考課を行い、目標や向上心をもって仕事に取り組む事が出来るように		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に社内研修を行っている。またインターネットを利用したオンライン動画研修システムを導入し、コロナ禍でも研修を受けスキルアップを図れるように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため同業者の交流も中々難しいが、法人内での、グループホーム管理者が集まる時間を設け現状の問題点等話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係づくりに努めているが、スタッフ全体で取り組めていない。傾聴重視して信頼関係を構築するように、今後も務めていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来な事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを理解して、必要と思われるサービスを説明して導入に努めている。ホームだけでなく他の施設の説明や資料をさしあげて説明して、ご納得できるところを検討して頂けるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、一番の理解者として関係を築くよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防のため玄関先でのシート越し・窓越しの面会や、ズームやラインを使用したリモート面会を行い、大切なご家族様との絆がきれないように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ワクチン接種済みのご家族様のご協力でお墓参りやご自宅に短時間ではあるが帰ったり、外食以外のちょっとした外出をされたりしています。また面会に来て頂いた際には、関係が継続されるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を日々、スタッフが理解して席の配慮したり、利用者様の間に入りトラブルにならないよう配慮を行なっている。支え合っている雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御連絡することは少なくなっているが、永眠された後、御連絡を頂くことも多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動・表情から利用者様の想いをうけとり出来るだけご本人様本位に努めております。全スタッフが同じ思いで支援できるよう、努めていくように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話、面会に来られた方との会話などから情報を得、アセスメント表に書き加えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意見を日頃より伺い、ミーティング時に話し合い、計画の作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいた事、ご利用者様・ご家族様の声をノートに記し、出勤時に確認をしてからケアに入るようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまり取り組まれていない、いろんな視点から支援が行なえるよう今後取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にAEDを設置して、回覧板にて設置したことを知らせ、また、壁にある場所等を掲げて、緊急時に使用いただけるようにしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている。提供表を希望されるご家族には医師に提出した同一の物をお渡ししている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は施設に常にはいないので中々相談する機会はないが、訪問看護等が入った時は、疑問に思った事や分からない事を相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただければようご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算御導入を現在、本部と話し合っており、御家族様やスタッフの不安を専門分野の方を入れる事により軽減できるのではないかと検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、今年度も受けたいと思っているが、実施にいたっていない。オンライン研修や社内勉強会で、緊急時の対応の勉強はしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しています。非常食、非常用トイレ等、備品も揃っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大切にできるように心がけています。希望に応じて居室の鍵を個人持ちにしており、施錠も自由に行っている。言葉掛けの対応のむずかしさを感じている、学習会を開きたいと考えています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。自己決定が出来る様、無理強いしないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切に、気持ちに寄り添い対応出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際、自身の好きな服を選んで頂いたり、選べない方には職員がお手伝いをさせていただき、おしゃれを楽しんで頂けるように支援しています。又、ご家族様のご協力により、季節に合った服装が出来ています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けによりお手伝いして頂き、それが役割となっている。盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・食器拭き等々、細分化してお手伝いをしてもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った形態や食事を配慮して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。それぞれの方に、磨き残しのお手伝いをさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中布パンツを着用頂けるよう、失禁のごく少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て決めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	コーヒーなど、砂糖の代わりにオリゴ糖を入れたり、起床時に冷水を飲んだりしています。水分摂取も多く取るようにしています。意識を高めるために介護記録にトータルの水分摂取量を記入するようにしました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後に入浴時間を設けている。入る時間は決まっているが1日5名位は入浴できるように心がけて、ゆったりと入れるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にあり望むように自由に外出は出来ないが、朝の散歩であったり近所の散策程度の外出はしている。ワクチン接種済みのご家族様で、ご協力して頂ける方に関しては、行先限定でお出かけしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所にて管理している。自己にてお財布を所持してみえる入居者様数名みえるが、ほとんど、買い物する機会をもてていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマートフォンやガラケーをお持ちの入居者様はおられます。その方その方で状態が違いますので、状態に応じた使用の仕方をしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ壁飾りを替えたり、毎月玄関先の飾りを変えて季節感を出している。また特に季節が良いと花壇の花が沢山咲いているので、入居者様に花をつんでいただき飾ったりしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング・ソファ・長椅子等外を眺めれる場所等はある、思い思いの場所で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、御自宅でご使用されていた家具などをお持ちいただけるようにお話している。入居者様によっては命の次に大事なぬいぐるみがあったり、皆様色々な大事な物を持って来られ、ホームの居室を自分の空間にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどを適宜設け、安全に歩行できるように努めている。		